

# 生徒指導の機能を生かした特別活動のあり方

## —学校レクリエーションを例に—

長 沼 豊

### 1. 課題の所在

#### (1) 主題設定の理由

児童は小学校が楽しいと感じているのか。それはどのような時か。

文部科学省（2003）が行った調査で「学校生活に満足していますか」という質問に対して90.5%の小学生が「満足している」「まあ満足している」と回答している。楽しい要因としては「友達と遊ぶのが楽しい」93.6%、「運動会や遠足などが楽しい」74.2%が上位で、「学校での勉強が楽しい」は40.9%となっている。ベネッセ教育総合研究所（2007）の調査では「あなたは、今学校が楽しいですか」という質問に対しては88.2%の小学生が「とても楽しい」「わりと楽しい」と回答している。楽しい要因としては「友だちがたくさんいる」89.7%、「授業中は楽しい」75.3%となっている。さらに西東京市（2012）の調査では、学校が「とても楽しい」「まあ楽しい」と回答した小学生は91.3%であった。学校の楽しいところとしては「休み時間」77.4%、「友だちがいること」70.7%、「遠足や運動会などの行事」63.6%、「クラブ活動」61.2%が上位で、「授業」と回答した小学生は28.1%であった。

これらの調査から、おおむね小学生の9割は学校が楽しいと感じており、その主な要因は友だち関係、学校行事・クラブ活動などの特別活動、休み時間ということがわかる。楽しいと感じる要因はいずれも学校の特質とも言うべき「集団である」ということに帰着されている。友だち関係はもとより特別活動は集団活動であるし、休み時間の楽しさの本質は休息というよりも友だちとの会話や遊びの充実にあるからである。集団での教育を行う学校では、児童が集団であるがゆえの楽しさを感じ（もちろん悩みもあるが）、充実した学校生活を送ることができるよう配慮することが求められることになる。ではそのための具体的な手段・方策にはどのようなものがあるのだろうか。

本稿では、このうち友だち関係を活性化させる手段として学校レクリエーションを取り上げ、それが活用される主要な領域である特別活動で行われるものに着目する<sup>1)</sup>。

筆者は2012年に、小学校の授業等で用いられるレクリエーション（以下、見出し等の場合を除きレクと略記）を教育的指導の視点から、そのあり方を論じた（長沼2012：55-67）。まず小学校におけるレクの活用場面を整理した上で、アイスブレイク、プリント教材、班学習における凝集性の3点について実際の事例に即して検討を加えた。次にレクの理論が小学校の授業方法に援用できる点として、レク財と教材の関係、指導過程の類似性、授業等における集団の活性度との関連性について考察し、授業におけるレクの活用のあり方を述べた。なお、教科外の教育活動、例えば特別活動

におけるレク実践についての考察については残された課題として稿を改めるとした（以下、前稿）。本稿は、この残された課題に取り組むものでもある。

今回の考察では、特別活動において学校レクが実践展開されることは、児童が学校生活を楽しいと感じ、集団活動にも喜んで参加・参画するようになり、友だち関係が良好になって成長・発達していく一助となると考える。つまり生徒指導の機能が発揮される特別活動の実践の意義を論じることになる。（小学校の特別活動について論じる。）

## (2) 先行研究から

第1に生徒指導の機能を生かした特別活動に関する論考として日本特別活動学会紀要に掲載されたものは佐々木（2008：15-20）がある<sup>2)</sup>。佐々木によると、特別活動は多面的な子ども理解と評価の機会であり、教師が個々の子どもの個性や適応の度合いを見極めながら、その都度、子どもに必要な支援や励ましを伝統的に行ってきた教育活動であるとしている。そして特別活動の特徴である集団活動には、問題解決の活動と課題達成の活動の2種類があり、これらを組み合わせた集団活動を行うことが、開発的な生徒指導になるとしている。

第2に特別活動におけるレクのあり方についての論考としては荒木、藪田のものがある。

荒木は、学校行事を中心にして学校レクを捉え、その意義を考察している。特別活動とレクの関連性について言及している点としては「『学習指導要領』の解説をみると、「特別教育活動は、生活にリズムとアクセントをもたらせ、時に生活の流れをかえ、生徒の行動や意識に変化をもたらす『転機・契機』としての意義をもっている」とある。つまり「一区切り」をつけて出直し、やり直しのスタートともなるという意味である」「学校の1年間のサイクルの中で「休息」があり、「活力の再構築」があり、そして「生活に精彩を与える」ことは、大きな効用であり、またそれが学校行事の大きな意義として、その存立(在)の基盤となっている」(荒木1986:15)としている。レク(Recreation)そのものの意味(再創造)から特別活動(学校行事)の教育的意義を捉えている点が特徴である。

藪田は、学校におけるレクを①休養あるいは元気回復としてのレク、②行事型のレク、③グループワークとしてのレク、④授業ないしは学習そのものと深く結びついたレクに分類しており(藪田1985:35-41)、このうち特別活動に関係するのは②③である。その上で学習(仕事)と遊びについての基本的な関係として、①学習>遊び(学習に奉仕する遊びという立場)、②学習=遊び(両者の融合を理想とする立場)、③学習<遊び(遊びこそ究極の目標とする立場)と分類し、「これら三つのあり方を自在に選択しながら、学び手の人間としての成長をはかるのが学校レクリエーションの課題でなければならない」(藪田1985:41)としている。学習と遊びとの関係から特別活動におけるレクのあり方を論じている点は興味深い。

このように生徒指導の機能を活かす特別活動、および特別活動で行われるレクについての先行研究は各々散見されるが、両者を統合した知見は筆者の知る限り皆無に近い。そこで本稿では両者を統合した考察を行うことにしたい。

## 2. 学校レクリエーションと生徒指導の機能

まず初めに学校レクの学校教育における位置づけについて述べ、生徒指導との関係について考察する。

## (1) 学校レクリエーションと教育活動の位置付け

学校レクの考え方や歴史的経緯等については既に前稿でも述べている。レクにはいくつかの意味があるが、本稿では前稿と同様「生活の質および精神的な豊かさを高めるために行う余暇的活動、遊戯的活動等の総称」として捉えることとする。この定義を学校教育に当てはめるとどうなるか。

第1にレクを余暇的活動として捉える場合には、正規の活動ではない時間帯を指すことになり、先に述べたように休み時間等が該当することになる。また学校教育のカリキュラムの中でその中心を教科学習として捉えれば、児童会や学校行事などの特別活動は余暇として位置付くとも解される。第2にレクを遊戯的活動と捉える場合、遊びの時間でもある休み時間は当然として、小学校の教育活動には多様な遊戯的要素が学習の中に内在しており、多種多様なレク実践が展開されていることになる。教科学習での展開については前稿で詳述したが、本稿ではそれ以外の実践を考えていく。第3にもととの英語で考えた場合には、レクがRe+Creation（再創造）という語であることに鑑みて、再び動き出すための準備の時間もしくは再び動き出したその時間のことを指すことになり、休み時間ももちろん、活動（学習）の合間にリフレッシュするための時間などが該当することになる。いずれにせよ、小学校の教育活動にはレクの意味と合致したものが多彩に内在しているのである。

学校レクが小学校の教育課程のすべての領域で活用されていること、中でも特別活動がその主要な領域になっていることは前稿でも述べた。特に学級活動は児童にとって学校生活の基盤であり、友だち関係を育みながら集団活動を実践する基礎的なものである。それは先述した定義の「生活の質および精神的な豊かさを高める」という目的を考えた場合にも合致する。学級や学校の生活向上、個々の児童の楽しさに寄与する教育活動だからである。小学校学習指導要領の学級活動の内容は次のように記述されており、いずれの学年でも学級生活を「楽しく」するものとして、5、6年生は学校生活も楽しいものにする活動として成り立っている。

「〔第1学年及び第2学年〕（前略）仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに（後略）

〔第3学年及び第4学年〕（前略）協力し合って楽しい学級生活をつくとともに（後略）

〔第5学年及び第6学年〕（前略）信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに（後略）」（文部科学省2008：112）。

以上のことから、レクが小学校教育、特に特別活動と親和性のあるものであることがわかる。

## (2) 開発的な生徒指導としての特別活動

次に、その特別活動が生徒指導の機能を担う場（領域）として捉えることができるかどうかについて考える。

生徒指導とは「一人一人の生徒のもつ諸条件に即して、現在の生活に適応し、個性を伸長させ、その所属する集団（学級・学年・学校など）の向上を図るとともに、集団の一員としての生活を充実させ、集団や社会のなかで自己実現ができるような人格（資質・態度）を形成していくための指導や援助」（中野目1996：8）である。生徒指導と言うと問題行動などを起こした場合に対処するというようなネガティブな状況を想像するが、それだけではない。人格形成を援助するというポジティブな側面も有しており、学習指導の機能と並んで学校教育の根幹をなす（車の両輪をなす）ものである。したがって特定の児童を対象としたものではなく全ての児童を対象としたものである。

学校レクは、個々の児童の学級生活や学校生活を楽しく充実させ、友だちづくりにも寄与するものであり、生徒指導の機能を十分に果たすことができる教育活動とすることができる。

生徒指導には①治療・矯正的指導・援助（現に生じている問題に対して指導・援助する）、②予防的指導・援助（問題が生じるのを未然に防ぐよう指導・援助する）、③開発的指導・援助（児童生徒がもっている可能性を伸ばすよう指導・援助する）の3種あるとされる。このうち学校レクは、楽しい雰囲気の中で良好な人間関係を築いたり、息抜きの活動により生活をリフレッシュしたりするものであることから、①ではなく②と③として位置付く。ただ②の予防的な生徒指導というよりは③の開発的な生徒指導が中心であり、③を行うことで②にもなっているという方が実態に近いと言える。問題行動を起こさないことを主目的としてレクを行うということは考えにくいからである。そして③の生徒指導の機能の中心的役割を担う領域は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」（文部科学省2008：112）という目標をもつ特別活動である。学級・学校生活における多様な集団活動を活性化し、児童が楽しい学級、学校づくりに主体的に取り組むからである。

### 3. 特別活動で行われる学校レクリエーション

そこで次に学校レクが行われている具体的な場面を小学校特別活動を例にして考察する。レクの内容は多様であるため、ここで全てを網羅することはできないが、本稿ではレクそのものの活動とレクの要素が入った活動の2種に分類し例示することにする。

#### (1)レクリエーションそのもの

小学校特別活動の内容は①学級活動、②児童会活動、③クラブ活動、④学校行事である。これらの活動の中で実際にレクがどのように行われているのか確認しておく。少し例示しただけでも、①では学級レク集会、帰りの会における学級歌の合唱など、②では児童集会におけるミニゲームやアイスブレイクなど、③では囲碁将棋クラブなどレクそのものを実践するクラブ、④では移動教室におけるキャンプファイヤーや、文化祭のようにクラスの出し物を展示する行事などがあり、他にも多数存在する。これらは集団における仲間作り（人間関係形成）に用いられることが多く、すなわちレクそれ自体が学びの目的になっている場合もある。このうち移動教室のキャンプファイヤーを次に取り上げて詳細を考察する。

東京都内の区立A小学校では6年生の移動教室を長野県にて3泊4日の日程で実施している。その中で3日目の夜にキャンプファイヤーを行う。1時間半のプログラムであるが、児童のキャンプファイヤー係が準備と企画・運営を行うことになっている。係は各組から選出され準備は移動教室に行く前から始まる。プログラムの内容と方法、準備物品、役割分担など教員の指導助言のもとで考えていく。当日は自分たちの考えたプログラムを遂行するとともに、参加する児童全員が一体となって楽しめるクイズやダンス、歌などのレクを展開していく。点火には校長先生も一役買う。先生も一緒に参加したり裏方になったりしながら児童とともに楽しい時間を共有する。このようなプログラムを通して思い出深い体験となり、連帯感や達成感も味わうことのできる教育活動になっている。キャンプファイヤーという非日常性はその内容の楽しさと同時に、日常生活との対比におい

て鮮明な記憶となって残るのである。これらは、特別活動の目標である「自主的・実践的態度を育てる」「自己を生かす能力を養う」ということも十分に達成できる活動になっている。

なお、キャンプファイヤーだけでなく移動教室のプログラムは古民家での宿泊、ナイトハイク、星空観察、ハイキングなど全てがレク活動と言っても過言ではない。このような経験を通して、児童は豊かで多様な経験と友だちとの楽しい時間の共有を通して、学校生活を満喫するとともに個々の能力を伸長し成長・発達するのである。特別活動における学校レク活動が果たす教育的意義は大きいと言える。

## (2)レクリエーション的な活動

前項で挙げたものは、レクそのものが特別活動の内容となっているものであるが、レク的な要素を含んだ活動（学習）として捉えた場合には、さらに多くのものが小学校教育には内在していることがわかる。ここで「レク的な」と言うのは集団で取り組み楽しい雰囲気を味わうことができるという意味である。レクそのものを企図しているわけではないが結果的にレクと同じような効果がある活動である。

特別活動の内容で一例を挙げれば、学級活動や児童会活動の話し合い活動において、一体感をもって議事を進めることが出来て、しかも楽しい雰囲気ですぐ行ってきた場合や、児童集会で企画している内容が面白くワクワクするような気持ちになって楽しさを味わうというような場合である。クラブ活動では、同好の児童で組織されているため活動自体がレク的なものとも言え、活動内容がレクそのものではなくても、楽しさを味わうことのできる教育活動である。また学校行事の例としては、運動会の種目のうち表現活動（ダンス）や、競技性があるものの楽しさを共有することにも主眼が置かれた種目などは、レク的な活動となっている。

このように、レクそのものでなくても教育活動にはレク的要素が内在したものが多々ある。前稿で取り上げたアイスブレイクなどのように学習や活動の雰囲気を楽しいものに変えていくようなものもある。

学校生活が児童間、児童－教員間の人間関係を基盤として成立しているものである以上、レク的な活動により円滑な関係性を構築し維持しようとすることは必然的である。学校レクが小学校教育に重要な役割を果たす理由がここにある。

## 4. 生徒指導の機能を生かした特別活動(中核的な役割を担う学校レク)

以上の考察を基に、特別活動で行われるレクが開発的な生徒指導の中核的な役割を担うことを述べる。

### (1)人間関係を育むレクリエーション

レクが集団内の人間関係を円滑にし、集団を活性化する機能を有することは前稿で挙げたレクワークⅠの考え方から明らかである。これまで述べてきたように、学校教育、特に特別活動の内容である学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事では、いずれもレクやレク的な活動が行われており、児童が学級や学校の生活を楽しく過ごすことができるように企図されている。

遊びの3要素として「3間」（時間、空間、仲間）を挙げることがあるが、学校において児童が

同一の時間と空間を共有し、仲間づくりを行うことは学校における生活の基盤を形成することにつながる。遊びの要素を含んだ学校レクが、児童集団の豊かな人間関係を育み、相互の協力関係を強化することは、個々の児童の成長・発達に寄与するとともに、学校教育の目標にも合致したものである。すなわち、個々の児童の個性を伸長させ、集団生活に適應することができるような開発的な生徒指導として機能していることを意味する（予防的な生徒指導の効果も担っている）。同時にその営みは、児童の人間関係形成能力の育成にもつながるものである。遊びながら学ぶ、学びながら遊ぶという相互作用を通して、児童は仲間作りのすべを経験を通して学んでいくからである。

また、本稿の趣旨からは若干逸れるが、このような特別活動における学校レクの集団形成への機能は、教科の学習場面（一般的な授業）への好影響もあるのではないか。なぜなら小学校の授業では協同性を重視して行う学習形態が多用されるからである。例えばグループワークやペアワーク、班活動による討議や調べ学習、分担して発表する学習などである。授業において「学びの共同体」や「学びあい」<sup>3)</sup>が成立するためには、ペアワークやグループ学習に際して、「仲間」意識が醸成された集団であることが不可欠だからである。仲間として意識していない児童同士が教師の出した課題に対して臆せず協同で取り組むということは考えにくいからである。

特別活動における「人間関係を育むレク」は、生徒指導の機能を有するだけでなく、その集団活性化の効果が教科の学習指導にも好影響を与える可能性を示唆するものである。

## (2) 主体性を育むレクリエーション

特別活動におけるレクは、その内容によっては児童の主体的な活動として構成されることがある。先に挙げた移動教室におけるキャンプファイヤーがその例である。特別活動は、自主的・実践的な態度を養う活動でもあるため、企画や運営を児童に委ね、自分たちの手で遂行させ、達成感を味わうことも企図しているからである。その結果、企画力、参画する力などを向上させるとともに、主体性を育む場にもなっている。キャンプファイヤーのレク係は、教師の助言指導を受けながら、自分たちで出し物を考え、役割を分担し、遂行していく。時には係の児童の間で意見が合わないことや、非協力的な児童がいることがあるかもしれない。そうした困難も自分たちで創意工夫しながら乗り越え、遂行し目標を達成するという経験を積んでいく。

これらは、主体性ととも、リーダーシップを学ぶ機会でもある。レク係は、キャンプファイヤーにおいては中心的な（リーダーとしての）役割を担い、係以外の一般の児童をリードし、楽しいイベントになるよう仕切っていくからである。キャンプファイヤーに限らず、特別活動で実施される他のレクも同様である。

特別活動の中には、主体的な児童の活動を助長するものが多く存在するため、そこで行われるレクにおいても主体性を育む教育活動としての意義を有することになる。したがって、主体的に関わることや、リーダーシップを発揮することを経験的に学ぶことは、開発的な生徒指導として機能していることになる。

また、児童が主体的に何かに取り組む力は、特別活動のみならず学校の他の教育活動にも生かされ、教科等の学習活動に対しても主体的・意欲的に取り組んでいく素地を形成することにもつながることは言うまでもない。

### (3) 開発的な生徒指導としてのレクを生かした特別活動

以上のように、特別活動で行われるレクは、児童の豊かな人間関係を育み、主体性やリーダーシップを育む場として、開発的な生徒指導の機能を有したものになっていることがわかる。特別活動は児童の個性を伸長させ、集団において自己の生かし方を学ぶことなどをねらいとした教育活動であるから、それ自体が生徒指導の機能を有したものであるが、特にレクがその中核的な役割を担っているとと言える。

これまで見てきたように、特別活動は集団活動であり、協同的に行うものがほとんどであるため、また自分たちの学級・学校生活を楽しく、より良くしていくためのものであるため、レクおよびレクの要素を含んだ活動が大部分を占めるからである。レクに内在した「楽しさを生み出す機能」や「協同・連帯して行う機能」は特別活動の目標や内容にも合致しており、開発的な生徒指導の機能を強化しているとも言える。

## 5. まとめと残された課題

本稿では、まず2. において小学校で行われているレクが特別活動を主要領域としていることと、その特別活動が開発的な生徒指導の機能を有していることを述べた。次に、3. では特別活動においてレクおよびレク的な活動が種々の場面で行われていることを具体例を挙げて述べた。そして4. では2. と3. をふまえた上で、人間関係を育むことと主体性を育むことの2点から、特別活動で行われているレクが生徒指導（特に、個に応じて成長・発達を促す開発的な生徒指導）の機能を有していることを述べた。その結果、生徒指導の機能を生かした特別活動においてレクが中核的な役割を担っていることを結論とした。

本稿では開発的な生徒指導を中心に考察したが、予防的な生徒指導や治療・矯正的な生徒指導として位置づくレクはないのだろうか。また、人間関係を育むことと主体性を育むことの他に特別活動におけるレクが果たす役割はないのだろうか。

これら点については頁数の制約から言及しなかった。今後の課題としたい。また実践事例に基づく、より精緻な検証についても稿を改めることとしたい。

#### 【註】

- 1) 休み時間も授業というオンタイムではない時間＝オフタイム（休息）と捉えればレク的一种であると言える。
- 2) 当該紀要以外では、林尚示「特別活動における生徒指導に関する研究」東京学芸大学紀要、総合教育科学系58、pp.57-65、2007年などがある。
- 3) 佐藤学が提唱する「学びの共同体」と西川純が提唱する「学び合い」。

#### 【引用文献】

- 荒木快英（1986）『学校レクリエーション全書』遊戯社
- 佐々木正昭（2008）「特別活動の予防的開発的生徒指導としての役割についての考察」日本特別活動学会紀要第16号
- 藪田碩哉（1985）「学校レクリエーションとは何か」、日本レクリエーション協会編『学校レクリエーション』日本レクリエーション協会
- 中野目直明、小川一郎編著（1996）『現代の生徒指導』文教書院
- 長沼豊（2012）「小学校の授業におけるレクリエーションの活用方法と指導技術」、学習院大学文学部編輯『教育学・教育実践論叢2012』

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領』東京書籍

**【WEBサイト】**

西東京市（2012）「西東京市小学生意識調査」

[http://www.city.nishitokyo.lg.jp/kyoiku/kakusyuresearch/kk26-30\\_a-h\\_houkokus.files/a-2\\_pdf.pdf](http://www.city.nishitokyo.lg.jp/kyoiku/kakusyuresearch/kk26-30_a-h_houkokus.files/a-2_pdf.pdf)

ベネッセ教育総合研究所（2007）「中学校選択に関する調査」

[http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/chugaku\\_sentaku/2008\\_soku/soku\\_1\\_1.html](http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/chugaku_sentaku/2008_soku/soku_1_1.html)

文部科学省（2003）「学校教育に関する意識調査」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/04010601.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/04010601.htm)